

深掘り! 保険用語

< 65 >



株式会社ウインライフ

小野 力

<E-mail>

tsutom_ono@maia.eonet.ne.jp

物損事故は未解決のままに

ハッキング原因なら泣き寝入りも

前回に続いて、「自動」になり法律関係が複雑になった場合でも、保有者が第一義的に賠償責任を負うことに決着し、自動運転のレベル4までは現在の自賠法の枠組みが維持されます。自動運転車による人身事故で賠償責任を負う者が複数

前回は、「自動」になり法律関係が複雑になった場合でも、保有者が第一義的に賠償責任を負うことに決着し、自動運転のレベル4までは現在の自賠法の枠組みが維持されます。自動運転車による人身事故で賠償責任を負う者が複数

レベル4まで現在の自賠法の枠組みで

ません。東京海上が開発した「被害者救済費用等補償特約」は、このように場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる必要がある場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

等によりハッキングや自動運転車の欠陥が客観的に明らかになる場合に被害者が被害者に生じた損害を補償するために支出した費用を補償する特約です。自動車保険に無料で自動付帯されます。保険金を支払ってもノーカウント事故となります。他の保険会社も追随しておりスタンダードな特約になりつつあります。被害者救済費用等補償は、従来の自動車保険では「リコール」や「公的機関による捜査・調査

私事で大変恐縮なのですが、現在の体重が人生で新記録を達成されております。「痩せたいな」「痩せなきゃなあ」という、希望的な欲求は常にありますが、一向に行動に移せません。いろいろ調べてみますと、「ダイエット」というのは、非常にシンプルなもので、「食事」と「運動」をしっかりと考えば、その人が最も動きやすく、生活しやすい適正体重に、体があわせてくれるということがわかりました。方法はそれぞれで、「食事」で言えば、食べたものをメインとするか、酵素を摂取し断食するとか、炭水化物を控えるとか。「運動」で言えば、1日6000歩のウォーキングとか、自宅でもできる身近な運動とか、ジムに通うとか。大切なのは自分が自分に合った「コミット」すれば、成

営業素人からTOTへ!
真似して伸びる
暗記営業のススメ
有限会社ミライズ 片岡隆太 -00-
問い合わせ先E-mail:info@mi-rise.com

応援し導いてくれる人の存在

通の、目標を完全達成させることが、ライザップの人気の秘訣です。とは言え、ダイエットに必要な要素は食事と運動。ライザップはこれに加え、目標に到達することを真剣に考え、応援し導く「存在」そのものが分かります。ライザップの専属コーチです。少し視点を変えて、スポーツの世界に目を向けると、先の大躍進は、2018年からツアードに帯同している、サーシャ・バイン氏というコーチの影響が大きいというのがあります。彼がコーチに就任してからというもの、ツアード1位の選手を破り、ランキングも当時の68位から一気に急上昇。そして全米オープン

ンテニス優勝です。また、過去のワールドカップで、わずか1勝しかできなかったラフビー日本代表は、2015年の大会で、強豪南アフリカを破り、その歴史を変えました。その立役者で「躍有名になった五郎丸歩選手。この言葉を聞いたことがありませんか?」

「自分」は自分では見えない。「自分のことが最も分かっていないのは自分」なのだから。ライザップは「何をすべきか?」ではなく、「誰がやるか?」が大切だ。ある人は多いと思いますが、あなたの目標は? 成し遂げたい夢は? やるべき数字は? 俯瞰的に見ると、目標に到達する仲間を導いてくれる人はいませんか? 共に歩んでいく仲間を導いてくれる人はいませんか? 成功しているビジネスパーソンやスポーツ選手、結果を出す仕組みには、俯瞰的な目線で導いてくれる存在、そう「第三の目」という存在が重要です。理由は簡単。「自分

減されることもありませぬ。同様の保険は「対歩行者等傷害特約」として既に商品化されており、自動車保険の特約として一部の保険会社で販売されています。被保険者であるのは「歩行者」と「自転車」により通行している者です。人身傷害保険と同じ基準で歩行者等に保険金を支払います。ただし、歩行者等に全面的に過失がある場合は免責とされています。私見ですが、被害者救済を自動車側の責任や過失に応じて決定するというシステム自体を見直すべきだと思います。自動車は利便性と同時に危険を内包しています。そのデメリットは社会全体で負担するというシステムが理想だと思います。既にフランスの交通事故法では、歩行者や自転車搭乗者の人身損害には過失割合は適用されません。「トリビア」自動運転車が普及すればPL保険が補償の主流になるのではという疑問を投げかけ、PL法では欠陥の立証責任は被害者にある。製造者には「開発危険の抗弁」なども認められており責任が免責される可能性もある。PL保険には直接請求権の条項がない。被害者救済は大きく後退するので自動車保険の役割は当分続くと思われる。

奮闘! 新米支社長

西川 新一 <00>

「支社査定」公表で明示

支社長としての去就が問われる激動の9月は、奇跡的な大口成約と終盤の好運が重なり、想定した大苦戦上半期を覆し、要請額達成はおろか、当ロック内第2位という見事な結末で幕を閉じた。要請額達成要因を振り返ると、組織内の全戦力を結果し、地道な下積活動を蓄積したことによるものであり、組織の歩みとは、1人の100歩よりも100人の1歩がいかに堅実で、力強いものであるかを痛感させられた上半期となった。支社長自身が日々発する言葉の中で、「必ず達成できる」「巨、職場のムードを保ち続け、組織の長が決して諦めない事の重要性も実感した9月であった。10月に入り、当社は下半期に突入した。指標目標値の再要請や非営業面での業務が、統々と本社指示で押し寄せ、中間管理職の支社長は、営業面での多忙と同レベルで、気が休まらない日々が続く。そして、この時期には、組織所属メンバーが、自支社組織のモチベーションやパフォーマンスの有無、支社長人物像評価等を評価する「支社査定」が公表される。この査定は、営業成績・事務不備管理等の表面的成績には現れない組織の内面を評価する指標であり、いわば支社長が裸にされ人物面・マネージャー適性を評価される制度である。当支社については、支社所属メンバーが9月時点で専用画面にて入力し、上記項目を5段階で評価することとなった。入力結果は、どのメンバーがどの評価で入力したかは、誰も知ることができないシステムとなっており、各営業支社長は本評価において、自分がどのように評価されていることを否応なしに知らされてしまう。10月下旬、本システムが開示されたが、中身としては、自分が危惧していた「組織長としてやや配慮に欠けている」との結果が明示されたものであった。想定はしていたものの、結果獲得成優先の半年であったことは否めなく、退社時刻にメリハリが付いていない点や男女社員間の融和が不十分である点の負目を感じていた。弱小戦力で組成される当支社において、ハードな要請額を達成させる厳しき行動管理とゆとり確保は容易でなく、上半期勝ち取った良好な結果の代償が、上記の厳しき組織評価となった。下半期早々、上記「組織内労働環境改善」という、営業目標とは異なる「難題」突き付けられた形であり、改めて支社長職の難しさを痛感させられた形となったが、怯まずに立ち向かうことを誓ったのであった。

「組織内労働環境改善」という難題

「これから伸びるのは、損保系」